

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

12 月号

 2018年12月1日
 編集・発行/
 ウィーン岐阜合唱団

紅葉ツアー・高山合唱交流会を終えて

高山第九実行委員 杉江 功



一瞬間の間をおいて、歓声と「ブラボー!!」の掛け声とともに満場の拍手が。私たちが第九プレスティモを歌い切り、そして菅原先生の渾身のピアノ伴奏が終わると同時でした。

高山では、ここ30年間第九演奏は行われておらず、第九を歌った方はもちろん聞かれた方も少ないと思います。そんな背景のもと、40数人とはいえ、その歌声は古い酒蔵を改装した会場によく響き、そして平光先生のダイナミックな指揮による演奏は高山の皆さんにインパクトを与え、歓声をもって応えていただけました。まさに、来年の飛騨高山での「千人の第九演奏会」の確実な手ごたえをつかんだ瞬間です。二階から身を乗り出して聞いてみえた高山第九のソリストであり、世界を舞台に活躍されている水口聡さんからも、「ぜひ、来年は一緒に歌いましょう」とエールを送っていただきました。

交流会は、高山側からは今回交歓演奏した混声合唱団翠陽、南友コーラスの2団に加え、昨年交流した大八合唱団の皆さんも駆けつけていただき、百人を超える盛大なものとなり、「落葉松」や「飛騨娘」など、心のこもった歌声を披露していただきました。また、大八合唱団の皆さんからは、覚えのあるウィーンのメンバーを見つけては声をかけていただくなど、着実に飛騨、美濃相互

の一体感が培われていることもうかがわれました。

また、この交流会をまちなみコンサートの一環として位置付けていただくという高山側の計らいで、会場の高山市の展示施設「飛騨高山まちの博物館」を無償でお借りすることができました。加えて、グランドピアノの音色にも負けないローランドのキーボードが準備されており、菅原先生の合唱伴奏はもちろんのこと、平光先生によるピアノ伴奏で伴先生の情感豊かな美しい歌声や菅原先生のピアノの熱演も披露していただきました。

高山側の交流会に対する熱意が、そして、来年の高山第九におけるウィーン岐阜合唱団への期待を感じられずにはられませんでした。

夜の懇親会にも、水口聡さんや中村隆夫さんをはじめ高山の音楽界の重要な方々や参加合唱団の幹部の皆さん15人も参加されました。その中に学生時代の後輩を見つけ数十年ぶりに対面した団員も! いずれにしても合唱や音楽を共通言語に、会が始まる前から初対面と思えぬ会話がはずみ盛会のうちにフィナーレに。恒例の全体合唱は、高山関係者もウィーンの仲間も広い会場いっぱいになって楽しく歌ってお開きとなりました。

一昨年の高山紅葉ツアーでの交歓会がきっかけで高山第九の話が持ち上がり、ホップ! です。昨年の位山での交流会で道筋ができ、ステップ! そして今回の交流会が、ジャンプ! です。

来年12月15日の飛騨高山「千人の第九演奏会」に向けての機運が着実に高まってきました。

今月15日には高山での第九合唱団もいよいよ発足します。ウィーン岐阜から一人でも多くの団員の皆さんが高山第九に参加して、飛騨と美濃が一つになり岐阜県の文化・芸術を大いに盛り上げていきましょう!!

「大満足の紅葉ツアー♪」

大垣支部 ソプラノ 栗田 慶子

「飛騨高山と錦秋の上高地」と題した今年の紅葉ツアー。上高地は、以前訪れた際、悪天候で散策できなかったため、もう一度行ってみたいと思っていた場所。

今回は日程も調整でき、参加を決めました。そして、なんといっても「ウィーン岐阜合唱団の旅」といえば、音楽に彩られた旅。今年は、来年の「高山第九」に向けて、高山の3つの合唱団との交流企画が予定されており、新たな出会いへの「わくわく感」を胸に出発。この2日間は、実に盛沢山な内容で、楽しい体験がいっぱい詰まった旅となりました。

旅のスタートは、音楽交流会に向けた車内練習。ひと通り歌った頃、高山に到着。昼食後には、いよいよ活動開始となりました。古い町並みやお寺、紅葉を見ながらの散策、利き酒や試食めぐり、明治時代の蔵を改装した「まちの博物館」で高山3合唱団と音楽交流、本陣平野屋さんの女性専用「リラックス土蔵風呂」、お酒を酌み交わしながら盛り上がった親睦会、高山の方々の小節のきいた「めでた、めでた〜♪」の祝い唄、美味しいお酒とお料理、ほのかな灯りが醸し出す“幻想的な夜の街散歩”、食べきれないほどのおつまみを前に、カラオケやおしゃべりが弾んだ2次会。あっという間に1日目の夜は更けていきました。

翌日は、朝風呂で早朝の高山を一望し、朝食後には、朝市めぐり。あちらこちらでお漬物試食をつまみながら、つついとお買い物。そして、いよいよ上高地。黄金色のカラマツ、大正池の透明感溢れる水面、穏やかに流れる梓川、少しガスがかかった穂高連峰と河童橋・・・どこを切り取っても絵になる“大自然に囲まれた上高地”の雄大な光景を堪能し、カフェでは大きなアップルパイを満喫。期待通りの大・大・大満足なツアーでした。

今回、初めてお会いした高山の指揮者の方から、「ウィーン岐阜合唱団の第九は、ポイントをしっかり押さ

えていて、とても良かった。平光先生のご指導が団員に浸透しているのですね。」「会場の2階で聞いていたら、声がとても響いてきて素晴らしかった。思わず身を乗り出しましたよ。」などのお言葉を頂きました。同じテーブルに同席された高山の方々は、とてもお酒好きで朗らか。親睦会では、和やかにいろいろな話題が出ました。高山合唱団では最高齢が91歳とのこと。元気でないと歌えませんが、歌っているから元気でいられる・・・歌は、健康寿命を延ばす最適な健康法かもしれません。

私は、自分自身が歌声に包まれる感覚がとても心地よく、合唱が大好きです。第九を歌ってみたいという思いから、ウィーン岐阜合唱団に入団しましたが、この冬でもう4回目。年々、少しずつでも成長していけるように練習していきたいと思っています。「第九」を通じて人の輪が広がっていく・・・音楽は世界共通語、どんな地域の人とも、どんな民族の人とも、一緒に共感し合えるのが音楽。今年は、ウィーン岐阜合唱団の第九の他に、大垣市制百周年記念の第九があり、そして来年は、高山の第九。「第九」には、次々に人をつないでいく力があるのだと感じています。

平光先生や和子先生、菅原先生の行く先々には、いつも音楽が溢れ、そこには、新たな出会いやチャレンジがいっぱい！2日間の「ウィーン岐阜合唱団の旅」は、いろいろなものが詰まった「宝箱のような旅」。とても充実した楽しい紅葉ツアーでした。これも、企画や下調べを繰り返して下さった実行委員長の杉江さんを中心に、細かい気配りを重ねて下さった委員の河田さん、浅野さん、渡辺さんのお陰です。ありがとうございました。

また、来年が楽しみです♪

「歡喜」の気持ちになって!...

岐阜本部 アルト 田中美佐代

今年の4月、ウィーン岐阜合唱団に入団しました。数年前、大阪で行われた1万人の第九演奏会の様子をテレビニュースで見ました。その時「私も、あの場所で伸び伸びと力強く歌ってみたい!」という想いが、心の奥底から湧き上がってきたのを覚えています。

小さい頃から歌を歌うことが好きで、よく歌っていました。小学校低学年の頃でしたか、教室の皆の前で1人歌を歌う機会がありました。先生が「とても上手だから、今度の全校行事の学年合奏発表の後に歌ってみなさい。」と、言ってくださり、独唱で歌った事がありました。確か「スキー」と「とんび」という曲だったと思います。その時は嬉しさや緊張もあったと思いますが、体育館の高い天井にまるで自分の声が、スキーのように舞い上がり、とんびと一緒に雄大に舞い上がっていった様な気持ちになりました。大人になり、結婚し、仕事を得て、子供も巣立ち、親の介護を経て長い年月が流れましたが、誰にも気兼ねなく、伸び伸びと歌いたいという感覚が、ずっと体のどこかに宿っていたようです。

ウィーン岐阜合唱団の皆さんは温かく迎えてくださり、平光先生の愛情ある熱心な指導で音楽の楽しさを教えられました。伴先生をはじめ、ピアノの諸先生方、パートリーダーや他の役員の方々にも親身にお世

話いただき感謝しております。しかし、「歌いたい!」という気持ちは私の中で密かに温めて来たことであって、主人には寝耳に水、ところが、夏の演奏会当日の朝、主人が「ぞう列車」のさびの部分で口笛で吹いているのです。「覚えたの?」と聞くと、「覚えさせられたの!」と2人で大笑いしました。

夏の演奏会の「ぞう列車」は私にとっては初めての曲、皆さんについて行くのが精一杯で家でもかなり練習しました。演奏会に功を奏したかどうか分かりませんが、主人には功を奏した様です。今では仕事で遅くなった時でも、夕食は何でも残り物でいいからと、快く練習に送り出してくれています。12月には、いよいよ第九の演奏会があります。大人になると子供の時のような伸び伸びとした澄み切った声は出なくなりましたが、理想と現実の中で課題を見出す事ができ、これからの人生に新しい色を混ぜることができました。

人によって曲のイメージは異なると思いますが、私は、楽譜Mの部分「F r e u d e ~」で皆が一斉に力強く歌うところは、数百万羽もの白い鳩が一斉に大空に向かって飛び立つ感覚を覚えます。この「歡喜」の気持ちが皆さんに届くように歌えるといいなと思いつつ、日々練習を重ねています。

2 回目の“第九”

岐阜本部 アルト 堀 奈緒

ウィーン岐阜合唱団に入団して1年3ヵ月。年末よく耳にする“第九”を聴く側から歌う側になりたい!と、思っていました。以前、合唱経験のある義母が背中を押してくれたこともきっかけです。

音楽と触れ合うのは、大学時代マンドリン部で活動していた以来です。昨年、入団した当時の事を思い出してみると、人前で声を出すのに若干照れがありました。でも団員の皆さんの歌声に圧倒され、ついていけるように購入したパート練習用のCDを車の中で聞きながら歌うのが私の練習法でした。本番に近づくにつれ、暗譜にとっても不安でした。でも、平光先生の指揮(身振り、手振り)を見ていると、何となく歌える気になりました。今年の第九演奏会は、昨年よりほんの少し自信を持って歌えるような気がします。ご指導して下さる諸先生、お世話して下さるスタッフの皆様、団員の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

12~2 月練習予定

練習時間は 18:45~20:45 です(18:30 までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
12 月 6 日 (木)	長森コミュニティセンター	12 月 7 日 (金)	大垣市南地区センター
12 月 9 日 (日)	岐阜・大垣強化練習 大垣北地区センター 9:30~12:00(変更)		
12 月 13 日 (木)	長森コミュニティセンター	12 月 14 日 (金)	大垣市南地区センター
12 月 20 日 (木)	岐阜・大垣合同練習 大垣北地区センター18:30~20:00【オケ合わせ】		
12 月 23 日 (日)	岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター 14:00~17:00		
12 月 24 日 (祭)	“第九”演奏会 本番 長良川国際会議場メイン会場 14:00 開場~		
1 月 10 日 (木)	長森コミュニティセンター	1 月 11 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 17 日 (木)	長森コミュニティセンター	1 月 18 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 24 日 (木)	岐阜・大垣合同練習 長森コミュニティセンター18:45~20:45		
1 月 31 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 1 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 7 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 8 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 14 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 15 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 21 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 22 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 28 日 (木)	長森コミュニティセンター	3 月 1 日 (金)	大垣市南地区センター

◆テクニックを磨きたい、あなたへ贈る名言

たとえばスカルラッチィの小さなソナタを学ぶのは、最初はやさしい。
テンポ通りに弾けば3分で弾き終わってしまうが、
それを優れた演奏で聴かせるためには6年かかる。……レシエティツキ

たとえばハ長調のスケールだが、このスケールを弾くのは最も難しいのである。
それを真にレガートで、ある強さと速さで、しかも任意のリズムで、望ましいタッチで弾くのは
音楽の勉強の中で最も難しいことなのである。……バハマン

〈テクニックを支える「基本」〉

「すべてを支えるのは基本である」どんなに簡単に見えるフレーズやメロディーでも美しく音楽的に弾くには、かなりの練習が必要になってきます。テオドル・レシエティツキは、ポーランド出身のピアニスト兼ピアノ指導者です。ウィーンでベートーヴェンの弟子であったツェルニーに師事した彼は、いわばベートーヴェンの直系。19世紀後半から20世紀前半に活躍したピアニストのほとんどがレシエティツキか同じくツェルニー門下のリストの教え子であったことからしても彼がいかに優れたピアノ指導者であったかわかります。

ウラディミール・ド・バハマンは、ロシアのオデッサ出身ピアニスト。リストをも驚嘆させた優れたテクニックと音楽性によって一世を風靡した名ピアニストです。また名人芸的な演奏と共に演奏中につぶやいたり、聴衆に話しかけたりして、その奇行も注目されました。遺された音源にもこうしたつぶやきや弾き直しがそのまま記録されています。しかしこの一言からも、バハマンが単なる無手勝流のピアニストではなく、しっかりした基本を身に付けていたことがわかります。だからこそ、あれだけ自由奔放な演奏が可能になったのではないのでしょうか。